

養殖ブリ類の輸出促進のための低コスト・安定生産技術の開発

1. 事業概要

ブリ類（ブリ、カンパチ、ヒラマサ）は、我が国の養殖業における主要生産品目であるとともに、今年度農水省が策定した「水産物輸出戦略」における重点品目にも位置づけられる重要な養殖魚です。

養殖ブリ類の輸出を促進するためには、天然種苗への依存により制約されている出荷時期（9～3月）の通年化や、生産コスト（飼料費、病虫害対策費等）の削減による生産基盤の強化が課題となっています。

これらの課題を解決するため、本事業では以下の技術開発を実施します。

- （1）ブリ人工種苗の導入により春季・夏季の出荷を可能とするために、人工種苗の低コスト・早期供給技術を開発します。
- （2）ブリ類養殖の生産コストを低減するために、病虫害耐性等の有用形質を持つブリ類の養殖品種（家系）をゲノム情報を利用して短期間で育種する技術を開発します。今回は、（2）について公募を行います。

2. 公募研究課題の研究開発内容、目標等

●公募研究課題：ゲノム情報を利用したブリ類の短期育種技術の開発

① 研究開発の具体的内容

ゲノム情報を利用して病虫害（外部寄生性ハダムシ等）耐性を有するブリの養殖品種（家系）を作出するとともに、その養殖適性を評価します。また、ブリのゲノム情報を応用した、他のブリ類の病虫害耐性品種（家系）作出技術を開発します。さらに、ブリの高成長品種（家系）を作出するための DNA マーカーを開発します。

② 達成目標（最終目標）

病虫害（ハダムシ）耐性を有するブリの養殖品種（家系）を作出するとともに、他のブリ類についても病虫害（ハダムシ）耐性品種（家系）作出のための DNA マーカーを開発します。また、ブリ高成長品種（家系）作出のための DNA マーカーを開発します。

③ 研究実施期間（予定）

平成26年度～平成30年度（5年間）

④ 平成26年度の委託研究経費限度額

85,900千円

3. 委託件数

原則として1件とします。

4. 問合せ先

上記の内容に関する問合せは、応募の締切りまでの間、下記において受け付けます。

なお、審査経過、他の提案者に関する事項、応募に当たり特定の者にのみ有利となる事項等にはお答えできません。また、これら以外の問合せについては、質問者が特定さ

れる情報等を伏せた上で、質問及び回答の内容を事務局のホームページにて公開させていただきますので、御承知おきください。

記

- 公募研究課題について
農林水産技術会議事務局研究開発官（環境）室 担当者 鈴木、齋藤
TEL：03-3502-2216
FAX：03-3593-7227
- 契約事務について
農林水産技術会議事務局総務課契約班 担当者 江橋
TEL：03-3502-7967
FAX：03-5511-8622

委託プロジェクト研究の公募説明会 参加申込書
(養殖ブリ類の輸出促進のための低コスト・安定生産技術の開発)

農林水産省 農林水産技術会議事務局
研究開発官（環境）室 宛て
(fax : 0 3 - 3 5 9 3 - 7 2 2 7)

平成 年 月 日

該当委託プロジェクト研究名
養殖ブリ類の輸出促進のための低コスト・安定生産技術の開発

研究機関等の名称：

参加希望人数： 人

所属・役職：

氏 名：

所在地：

連絡先：tel

fax

e-mail :

その他：

注)「所属・役職」欄以降の記載に当たっては、当該説明会参加を希望する者のうち、連絡窓口となる1名について記載して下さい。

委託プロジェクト研究「養殖ブリ類の輸出促進のための低コスト・安定生産技術の開発」
の公募に係る審査基準

審査項目	審 査 基 準 各審査項目について、次の４段階で審査を行う。 A（１０点）、B（７点）、C（３点）、D（０点）	
研究開発の趣旨	農林水産技術会議事務局が示した研究開発目標及び研究計画の方針との整合性があるか。	A：十分に整合性がとれている。 B：一部に整合性がとれていない箇所があるものの、研究の実施には支障がないと認められる。または、研究計画の一部修正により、整合性をとることが容易であると認められる。 C：整合性がとれていない箇所が多数見られる。または、一部であっても、重要な点について整合性がとれていない。 D：ほとんど整合性がとれていない。
研究開発計画	農林水産技術会議事務局が示した研究開発目標及び研究計画の達成に向けて十分な内容となっているか。	A：提案された研究内容で、十分達成が見込まれる。 B：研究内容の（軽微な）一部修正により、十分達成が見込まれる。 C：目標及び計画の達成のために、研究内容の大幅な変更が必要である。 D：提案された研究内容では、ほとんど達成が見込まれない。
	提案の研究開発計画（課題構成、実施期間等）及び内容が技術的に優れているか。	A：技術的に優れている。 B：技術的に優れている点はさほど見受けられないが、特に不十分な点も見受けられない。 C：やや不十分な点が見受けられる。 D：技術的に劣っている。
	提案の研究開発内容に実現可能性があるか。	A：十分実現可能性が高い。 B：提案のままでは一部実現が難しいと思われる箇所がある。 C：提案のままでは実現が難しいと思われる箇所が少なからずある。 D：実現可能性が低い。または、内容の設定自体に問題がある（実現が容易なことのみを計画している等）。
研究開発体制	提案の研究開発内容	A：十分な技術能力及び設備を有している。

	を遂行するための高い技術能力や設備を有しているか（知的財産等の取組状況の有無を含む。）。 ----- 研究開発の実施体制や管理能力等に優れているか。	B：技術又は設備のいずれかで若干見劣りするものの、研究遂行には支障がないと見込まれる。 C：技術又は設備のいずれかで見劣り、研究遂行に支障を来すおそれがある。 D：技術的にも設備的にも見劣り、十分な研究の遂行が見込めない。 ----- A：実施体制、管理能力とも十分優れている。 B：若干不十分な点が認められるものの、研究の遂行には支障がないと考えられる。または、計画等の一部修正で十分対応可能であると考えられる。 C：いずれか又は両方に問題があり、計画等の大幅な見直しが必要と考えられる。 D：いずれか又は両方に大きな問題があり、計画の見直し等では対応が困難であると考えられる。
研究開発経費	提案内容の予算配分が効率的なものとなっているか。	A：十分効率的であり、かつ十分な研究開発目標の達成が見込める配分と認められる。 B：一部に非効率的な部分が認められるものの、研究の遂行には支障がないと認められる。または、計画等の一部修正により適切な配分とすることが可能と考えられる。 C：適切な配分とするために、大幅な見直しが必要であると考えられる。 D：予算配分が明らかに非効率である。
技術の普及可能性	研究開発された成果の普及可能性はあるか。	A：十分に普及が見込まれる。 B：普及の可能性があると認められる。 C：普及の可能性が低いと考えられる。 D：ほとんど普及が見込まれない。